

競技規則についての注意点

(2018 年度大会申し合わせ事項について)

本大会は世界水中連盟（CMAS）競技規則に則って実施するが、あわせて本大会申し合わせ事項として以下を適用する。

1. 使用器具について

- ① 競技で使用するモノフィンは、日本水中スポーツ連盟の認定シールが貼ってあること。
（器材公認申請書に記入の上、大会受付にて所定の保険料を支払い取得することも可。）
- ② モノフィン及び FRP 素材のビーフィンは、ブレードのエッジ全てをビニルテープ等で保護すること。
- ③ 透明のスノーケルは、先端から 10 c m までの間を目立つようビニルテープ等で巻いておくこと。
- ④ 弁付きのスノーケルは使用不可とする。

2. 使用可能な水着について

- ① アプニア、サーフィス、CMAS ビーフィンの各種目において CMAS 競技規則（2017 年 2 月改定）で定められた水着（別添のリスト参照）のほか、CMAS 規定にある水着の素材に合致するという第三者機関の認証があるハーフスパッツタイプの水着も使用可能とする。
- ② **CMAS 認定マークのついた水着であってもリストにないものは使用が認められないⁱ。**
使用が認められない水着を着用している場合は競技に参加できない（招集を通過できず棄権となる）ため、リストを事前によく確認のこと。

3. スタート手順について

- ① 招集所からプールサイドへ移動したらフィンを装着してよい。
- ② 通告員によるレーン順の通告後、**審判長の連続した短い笛の合図が鳴るまではスタート台に上がってはならず、**また、フィンをプールの中に入れてはならない。前組の競技中にフィンをプールに入れた場合は失格とする。
- ③ 審判長の連続した**短い笛の合図が鳴ったらスタートの準備をする。**
（この時点でスタート台に乗ってもよい。）
次の長い笛の合図でスタート台の上に上がり（先の短い笛で上がってもよい）スタートの姿勢をとれるようにする。
CMAS 競技規則で定める「1 分 30 秒以内」である必要はないが、遅滞なく準備すること。
故意に遅延させるような行為が見られた場合は失格とする。
- ④ **リレー競技において前の泳者が泳いでいる間は後の泳者はプールに入ってはならない。**
前泳者の競技中に入水した場合は失格となる。（**フィンを水中に入れた場合も失格**となる。）
- ⑤ スタート台へ敷く布は、連盟が用意したもののみ使用可能とする。

4. 退水方法について

- ① 原則**タッチ板を越えての退水を禁じる**ⁱⁱ。
ただし競技役員の指示があればそれに従って退水してもよい。
- ② **競技を途中棄権する場合は、競技役員の指示に従って退水**しなければならない。
(退水指示があるまでは原則その場で待機すること。)

5. Jビーフィン規則について

Jビーフィン種目は日本固有の種目であり、以下の規則に則って実施する。

- ① ビーフィン器具については、いずれの素材、サイズのビーフィンも使用可能とする。
- ② スノーケルを装着しなくてもよい。
- ③ 水着の素材、形状に関しては特に制限はないものとする。
- ④ スタート時の姿勢についても制限はないものとする。
- ⑤ ドルフィン泳は、スタートおよびターン後15m以内のみ認められる。
- ⑥ ドルフィンキックの使用制限以外、泳法は自由とする。
- ⑦ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能とする。(15mを超える前に頭、又はスノーケルが水面に出ること。)

<参考> CMAS 競技規則 (2017年2月改定) に関する主な注意点

- ① ビーフィンは販売していた状態のままであること。足の後ろ側の切り貼りを含め、いかなる加工も認められない。(CMAS 2.3.2.4)
- ② ビーフィンの足を入れる部分にどんな素材も入れてはならない。(CMAS 2.3.2.5)
- ③ **テーピングは原則禁止**する。医療用であっても選手に有利に働く可能性のあるものは使用は認められない。(CMAS 2.3.7.3)

ⁱ 例えば、2016年に使用が認められていた Jaked LEGEND J01等は、2017年度は使用できない。

ⁱⁱ プール両横側から退水する。